

敦賀市観光振興計画 2013→2022 ver.1



平成 25 年 3 月

敦 賀 市

【目次】

第1章 計画の策定に当たって.....	1
第1節 計画策定の趣旨と背景.....	1
第2節 計画の位置付け.....	2
第3節 計画の期間.....	3
第2章 敦賀市の観光を取り巻く状況.....	4
第1節 観光をめぐる動向.....	4
第2節 敦賀市における観光の状況.....	14
第3節 敦賀市観光振興計画(平成7年度策定)の進捗状況.....	27
第4節 敦賀市観光振興の課題.....	35
第3章 計画の基本方向.....	39
第1節 基本理念.....	39
第2節 計画の目標値.....	39
第3節 観光振興戦略.....	40
第4章 推進施策.....	46
基本方針1 多様な観光資源の活用と保全.....	47
基本方針2 ホスピタリティの充実.....	51
基本方針3 マーケティング戦略の推進.....	54
基本方針4 観光振興の推進体制の強化.....	58
第5章 重点施策.....	62
第6章 計画の推進方策.....	95
第1節 協働による計画の推進.....	95
第2節 計画の推進体制.....	97
第3節 計画の検証と評価.....	100
第7章 資料編.....	101
1 敦賀市観光振興計画策定委員会設置要綱.....	101
2 敦賀市観光振興計画策定委員会委員名簿等.....	103

第1章 計画の策定に当たって

第1節 計画策定の趣旨と背景

本市の観光施策については、平成7年度に観光振興計画を策定し、中心市街地活性化基本計画（平成21年度認定）や第6次敦賀市総合計画（平成23年度策定）等、他の計画と整合性を図りながらハード、ソフト両面にわたり観光施策を進めてきました。

この間、国では、将来にわたり持続可能な国づくりを進めるため、平成19年に「観光立国推進基本法」を施行するとともに、同法に基づく「観光立国推進基本計画」を策定し、国づくりの柱として観光立国の推進を位置付けています。また、観光による人、モノ、情報、文化等の交流は、経済を活性化させるばかりでなく、地域資源の再発見や魅力あるまちづくりによる地域文化の醸成にもつながることから、21世紀の成長産業として期待されており、多くの自治体において、観光振興を政策の主要な柱と位置付けています。一方、近年の観光ニーズについては、「団体志向から個人・家族志向」「受身型から参加・体験型」「その土地ならではの体験を提供する着地型の観光」などを求める傾向に変化しています。

このような状況の中、本市では平成18年度にJR北陸本線・湖西線直流化が開業したことに続き、平成26年度には舞鶴若狭自動車道が全線開通されるとともに、平成30年度には福井国体の開催、平成37年度には北陸新幹線の金沢敦賀間が開業されるなど、観光客の誘客を図るチャンスを迎えています。

このような背景を踏まえ、本市における今後の観光振興戦略及び官民協働により取り組む施策を明らかにし、地域と行政が一体となって観光振興を図るため、その指針となるべき新たな観光振興計画を策定します。



金ヶ崎緑地



駅前広場

第2節 計画の位置付け

平成23年4月に、本市の総合的な将来計画として「第6次敦賀市総合計画」が策定されました。総合計画では、「世界をつなぐ港まち みんなで拓く交流拠点都市 敦賀」を将来都市像に、国内外の各地域をつなぐ交流拠点を目指すことを掲げています。

本市は、京阪神・中京の2大都市圏を後背に控える国際的な物流港である敦賀港を有する立地特性から、古くから物流の中継地として発展してきました。加えて、原子力発電所をはじめエネルギー産業が発達し、まちの発展をけん引してきました。



舟溜り

このように本市は「港」や「エネルギー」を中心に発展を続けてきました。しかし、国際情勢や社会経済環境の変化、さらには平成23

年3月11日に発生した東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所における原子力災害の発生による影響などを受け、時代に即応した新たな発展の礎を築く必要に迫られています。

観光は、これまで産業政策の一部門として進められてきました。観光による経済的効果は、観光産業のみにとどまらず、農林水産業や商業、地場産業、雇用など、様々な部門への波及がみられます。さらには、経済的効果だけでなく、市内外との多様な交流を生むとともに、まちの魅力の向上や市民との協働のまちづくりが推進されるなどの社会的効果も期待されます。また、本市では現在、中心市街地活性化基本計画が推進され、その基本理念として「観光による交流人口の増加」が掲げられており、観光振興は今後、敦賀市がさらなる発展を遂げるための重要な位置付けとなっています。

これらを基本的な事項として踏まえ、「観光」が「港」「エネルギー」に次ぐ、発展の礎となるよう、関連する諸計画とも連携し、自他共に認める観光都市を目指す計画として位置付けます。

また、本計画は、「第6次敦賀市総合計画」が目指す将来都市像の実現を観光分野から推進する分野別個別計画としての性格も有します。

第3節 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度を初年度に平成34年度までの10年間とし、期間をおおむね次のように区分します。

(1) 短期

平成25年度から平成26年度の2か年を、特に舞鶴若狭自動車道が全線開通する平成26年度に向けた短期的な取組を重点的に進める期間として位置付けます。

(2) 中期

概ね平成30年度までの期間を、福井国体の開催に合わせた中期的な取組を計画的に進める期間として位置付けます。

(3) 長期

平成34年度までの期間を、北陸新幹線金沢敦賀間の開業を見越した長期的な取組を計画的に進める期間として位置付けます。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
観光振興計画	短期		中期				長期				
関連計画	第6次敦賀市総合計画(前期基本計画・後期基本計画)										
	中心市街地活性化基本計画										
	敦賀市都市計画マスタープラン										
	金ヶ崎地区周辺整備構想										
敦賀の観光に影響する機会	敦賀駅交流施設供用開始	舞鶴若狭自動車道全線開通					福井国体開催				